主催：一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

共催：なかのZERO指定管理者

助成：文化庁

文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（創造団体支援））
独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：一般社団法人全日本吹奏楽連盟
東京都吹奏楽連盟
公益社団法人日本吹奏楽指導者協会
公益財団法人日本音楽教育文化振興会
一般社団法人日本管打・吹奏楽学会
一般社団法人日本吹奏楽普及協会
日本コロムビア株式会社
株式会社テレビマンユニオン

2024.4.26 fri
at NAKANO ZERO

https://www.tkwo.jp/

Tokyo Kosei Wind Orchestra

Subscription Concert
2024-2025

#164

Kanade Yokoyama
Conductor

PROGRAM | プログラム

“地球”―美しき惑星―（2011年委嘱作品）／真島俊夫 ［約8分半］

"The Earth" —What a Beautiful Planet—／Toshio Mashima

水の交響曲／S.ランセン ［約15分半］

Symphonie de l'Eau／Serge Lancen

交響詩「炎の詩」／I.ゴトコフスキー ［約15分半］

Poème du Feu pour orchestre d'harmonie／Ida Gotkovsky

第1楽章　堂々と　Ⅰ. Majestuoso
第2楽章　極めて早く　Ⅱ. Prestissimo

休憩 Intermission ［20分］

交響曲第1番「大地、水、太陽、風」／P.スパーク ［約33分］

Earth, Water, Sun, Wind: Symphony No 1／Philip Sparke

第1楽章　大地　Ⅰ. Earth
第2楽章　水　Ⅱ. Water
第3楽章　太陽　Ⅲ. Sun
第4楽章　風　Ⅳ. Wind

注 意

- 本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- 携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- 演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮ください。

PROFILE | 指揮者プロフィール

1984年札幌生まれ。高校生の時に吹奏楽部に入部して打楽器を担当。北海道教育大学札幌校で声楽を学ぶが、一念発起し指揮者を目指す。桐朋学園にて学び、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程を修了。ダグラス・ボストック、尾高忠明、高関健、中村隆夫、黒岩英臣の各氏に指揮法を師事。2018年、指揮者の登竜門と言われる「第18回東京国際音楽コンクール」にて第2位&聴衆賞を受賞。これまでに札響、仙台フィル、山響、都響、読響、新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京シティフィル、東京佼成ウインド、千葉響、名古屋フィル、京響、大阪フィル、日本センチュリー響、関西フィル、大響、オオサカ・シオン、兵庫PAC、広響、九響などと共演を重ねている。2015-2017年、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員を務めた。趣味は登山とBBQ。NHK-FM「石丸謙二郎の山カフェ」にシーズンゲストとして登場、登山とクラシック音楽の関連エピソードを紹介し人気を博している。

本公演に関するアンケートへご協力ください。

PROGRAM NOTES

曲目解説－中橋愛生（TKWO楽芸員）

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

真島 俊夫作曲
“地球”－美しき惑星－（2011年委嘱作品）

真島俊夫は1949年に山形県で生まれた。神奈川大学を経てヤマハ・バンド・ディレクターズ・コースで兼田敏（1935-2002）らに作曲を師事。初期はニュー・サウンズ・イン・ブラス（NSB）のシリーズにおいて岩井直溥（1923-2014）のアシスタントを務めるなどして経験を積み、『波の見える風景』が公募により1985年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲となったことで広く知られるようになる。また、1987年のNSBに提供したTHE SQUARE『宝島』のアレンジが爆発的なヒットとなり、シンフォニックとポップスの両面で高く評価される。その後、優れた吹奏楽のための作編曲作品を次々と発表し、名実ともに日本の吹奏楽界を代表する作曲家の一人として活躍した。2006年には『鳳凰が舞う』でクードヴァン国際吹奏楽作曲コンクールのグランプリを受賞、世界的な評価も得た。まだまだ優れた作品を発表することが期待されていたが、2016年に舌癌のため67歳でこの世を去った。真島は東京佼成ウインドオーケストラ（以後、TKWO）との親交も厚く長く、代表作『三つのジャポニスム』（2001）はTKWOの委嘱作品である。また、1991年にもTKWOの委嘱で『Quiet Call for Trombone』（JASRAC登録ではユーフォニアムとブラス・アンサンブルのための協奏曲となっている）という曲が作られているほか、団員やそのアンサンブルからの委嘱作品も数多く手がけている。

今回演奏される『地球』は、TKWOの委嘱で作られ2011年3月に完成、6月21日に広島国際会議場フェニックスホールにおいてポール・メイエ指揮のTKWOによって初演された。作曲に際してのテーマや内容は真島に一任されていたそうで、地球をテーマにした曲を、というのは真島自身の発案による。真島が「水の惑星とも呼ばれる"地球"。我々の生命や文化を育んでくれている美しくも雄大な自然への讃歌。」と語っている通り、壮大で華やかな音楽となっている。真島の人気作『三日月に架かるヤコブのはしご』（1993）に近い構成と曲調となっており、主部では金管が輝かしく響き渡る。一方、中間部では様々な楽器にソロが登場し、各奏者の表現力がいかんなく発揮される室内楽的な表現も味わえる。ところどころでジャズを思わせるニュアンスも登場するなど、吹奏楽の様々な魅力を味わえる一曲となっている。なお、随所にホルストの管弦楽のための組曲『惑星』の第1曲「火星」を思わせる箇所が登場するが、これは真島がテーマを「地球」にしたときにホルスト作品にそれが含まれていないことに思い当たったから、とのことで、真島の茶目っ気も感じられよう。

セルジュ・ランセン作曲
水の交響曲

ランセンは1922年にパリで生まれた。音楽好きの両親のもとで育ち、4歳の時に作曲した『ゆりかごの歌』が後に出版されるなど、早くから音楽の才能を示していた。8歳でピアノとソルフェージュを学びはじめ、15歳のときには自作のピアノ曲でリサイタルを開催できるほどの早熟ぶりである。その後、パリ国立高等音楽院でピアノをマルグリット・ロン（1874-1966）などに、作曲をノエル・ギャロン（1891-1966）とトニー・オーバン（1907-1981）に師事している。1950年には権威ある作曲賞であるローマ大賞第2位を受賞したのを皮切りに、フランス国内外の作曲賞を多数受賞している。独奏曲から室内楽、管弦楽にオペラなどに優れた作品を提供した、当時のフランス音楽界の寵児である。

そんなランセンが吹奏楽と関わるきっかけとなったのが、パリ音楽院時代の友人であるクラリネット奏者デジレ・ドンディーヌ（1921-2015）の存在だ。1954年に名門バンド・パリ警視庁音楽隊の隊長となったドンディーヌは、吹奏楽のレパートリー拡充のために知人たちに吹奏楽の作曲を呼びかける。ランセンはその声に応え、パリ警視庁音楽隊の演奏に接するうちに吹奏楽の響きに魅了され、『演奏会用行進曲』（1960）以降、多数の吹奏楽作品を手がけることとなる。当初は吹奏楽の扱いに不慣れで最初の4作はドンディーヌにオーケストレーションを任せることになるが、『小交響曲』（1967）以降は自身だけで作品を完成させている。大きな転機となったのは2作目の吹奏楽作品である『マンハッタン交響曲』（1961-62）がオランダで行われているケルクラーデ世界音楽コンテスト（WMC）で課題曲となったことだ。以後、ランセンはWMCに継続的に関わることとなり、世界中の吹奏楽関係から注目される。特にオランダの楽譜出版社モレナールの社長がランセンに心酔したことは、ランセンの吹奏楽作品の普及に大きな役割を果たしている。その後も国際吹奏楽協会

（WASBE）の設立に携わり理事を務めるなど、作曲以外の面でも世界の吹奏楽に貢献を果たしていたが、2005年に82歳で没した。

今回演奏される『水の交響曲』は、スペインで行われているバレンシア国際吹奏楽コンクールの最上位部門課題曲として1984年に作られ、セフ・ペイパース指揮のマーストリヒト音楽院吹奏楽団によって録音初演された。曲は家族ぐるみで付き合いのあったイダ・ゴトコフスキー（次曲の作曲者）に捧げられている。特徴的なのはその編成で、西ヨーロッパ諸国の多くの吹奏楽曲で見られるようにビューグル（フリューゲルホルン）やテナーホーン（日本ではアルトホルンとも呼ばれるE♭管の楽器）、バリトンホーンにE♭バスといったサクソルン属の金管楽器が使用されている。

ランセンは12歳のときに「水の循環」をテーマにした曲を作ろうとしたが未完に終わり幾つかの主題だけが残されていた。それから約60年後の1983年、WASBEの会議のためにノルウェーに訪れた際に船で渡った北海に魅了され、そこで思いついた楽想と12歳のときの楽想が結びついた結果として誕生したのが本作であるという。曲は一本の歌が段々と変化していくことで水の様態の推移を表している。曲のどの部分が具体的にどのような情景であるかはスコアには文章では記されていないが、一聴するとどのようなシーンであるか容易に想像がつくだろう。それは、幼少より数多くのクラシック音楽に親しみ、様々な作曲家の書法を自らのものとしたランセンならではの筆致の成せる業である。音楽の流れ（水の循環）は、ランセンによると次のような過程となっている。

「わずかな霧が立ち昇り、雲に変わる。水滴が山に落ちる。小川が湧き上がり、高山の牧草地に道を拓く。やがて同様の小さな水路たちが一つの小川に合流し、神秘的な湖に流れ落ちる。そこから本物の山河となり轟音が響く。次第に大きな流れとなり、雄大な海へと至る。大海原からわずかな霧が立ち昇り、水の循環が再び始まる…」

イダ・ゴトコススキー作曲

交響詩「炎の詩」

ゴトコフスキーは1933年に生まれたフランスの作曲家。両親ともにヴァイオリニスト、兄はピアニスト、妹はヴァイオリニストとなる音楽一家に生まれ育った。8歳で作曲を始めパリ国立高等音楽院に進むとノエル・ギャロンとトニー・オーバン（先述のランセンと同門である）、ナディア・ブーランジェ（1887-1979）、オリヴィエ・メシアン（1908-1992）に師事している。1958年から1967年までの間にリリ・ブーランジェ賞など6つの大きな作曲賞全てで第一位を獲得するなどし、高い評価を得た。パリ国立高等音楽院で教授を務めつつ室内楽から管弦楽まで幅広い編成のために作品を提供しており、2020年にも合唱と管弦楽のための『冬の夜の夢』が初演されるなど85歳を超えても創作意欲は衰えていない。その創作の信条は「普遍的な音楽芸術を創造し、力強い構造を持つ現代的な音楽言語によって、あらゆる時代に通じる普遍的な音楽表現を実現させる」というもので、その通り、ゴトコフスキーの作品群は鋭く強靭な精神性を湛えている。フランスの作曲家としては珍しく20曲近くの吹奏楽作品（管弦楽からの編曲作品を含む）を手がけているのは、その信条に適した演奏媒体であるからだろうか。

1978年に作られた『炎の詩』は、ゴトコフスキーの2曲目、もしくは3曲目の吹奏楽作品（作品リストによって掲載曲数や作曲年が異なるため正確なところが判然としない）。いずれにしても彼女の吹奏楽作品としては初期のものである。また、委嘱者や初演者のデータも不明だが、公式webサイトなどには「作品はフランス政府の委嘱により作られる」と記されている。フランスなど西ヨーロッパの吹奏楽団のために作られたのであればランセン作品と同様にサクソルン属の楽器が使用されているのが自然だが、この曲では編成に含まれていない。ただ、ユーフォニアムが3パートあり、うち3番パートのみがヘ音譜表でB♭管移調記譜されていることから、西ヨーロッパ編成が全く意識されていないわけではないようだ。他のゴトコフスキーの作品にはフランス政府の委嘱で作られWMCで初演されたものもあるので、本作も同様かと推測される。

人類は誕生以来、火を崇めてきた。そこには様々な神話や伝承が存在する。不思議なことにケルトの伝承とゾロアスター教（拝火教）の儀式には非常に似ているものがある。それは「新年を告げる儀式において、人々は2つの火を扱う。一年を通して護られ崇められてきた火が終わりを告げる一方、天と地の2つの要素による古代の儀式に従って新しい火が灯される。2つの火が燃え上がった時、人々や牛の群れが列を成してその間を通過する。」というものだ。ゴトコフスキーは、この儀式からインスピレーションを受け、2つの楽章から成るこの曲を作った。第1楽章「マジェストーソ（堂々と）」は、遅いテンポでの強靭な和声が印象的な楽章で、生命の源泉たる巨大な炎を描いている。続く第2楽章「プレスティッシモ（極めて速く）」は、人間を創造主の地位まで昇華させる解放的で衝動的な力、いわゆる「プロメテウスの火」を描き、人類の偉業と火の神性が表現される。

フィリップ・スパーク作曲

交響曲第1番「大地、水、太陽、風」

スパークは1951年生まれのイギリスの作曲家。10代の頃より音楽をはじめ、当初はヴァイオリンを集中的に学んでいたが、生来の左利きであったことからトランペットに転向している。その後、英国王立音楽大学および同ディプロマで作曲とピアノ、トランペットを学んだ。大学での作曲の師であったフィリップ・キャノン（1929-2016）が学内で吹奏楽団を指揮していたために同団の演奏に参加したのが吹奏楽に関心を持つようになったきっかけであり、やがて自身でも学内で金管バンドも結成した。以降、金管バンドや吹奏楽のために多数の作品を提供し、サドラー国際吹奏楽作曲賞（1997）、NBAウィリアム・D・レヴェリ記念作曲賞（2005および2016）など数々の賞を受賞、世界中で活躍している。日本でもいまや『ドラゴンの年』（1984）や『宇宙の音楽』（2004）などの作品で吹奏楽関係者ならば誰もが知る存在となっている。TKWOとも関係が深く、委嘱によって『セレブレイション』（1991）が作られたほか、東日本大震災の復興支援のために作られて話題となった『陽はまた昇る』（2011）の続編として作られた『希望の彼方へ－Looking Up, Moving On－』（2012）もまたTKWOの委嘱作品である。

スパークの吹奏楽作品は多様である。大規模な作品から短く親しみやすい小品、ポップス調のものもあれば現代的な書法によるものもある。しかし、多くの作曲家にとってそうであるように、多作家であるスパークにおいても「交響曲」という分野は特別なものなのか、これまでに3曲しか発表されていない。そして、それはいずれも吹奏楽のためのものである。ちなみに、10代半ばの頃に管弦楽のための交響曲を作ったこともあるそうなのだが、それは破棄されている。また、金管バンドのための作品として『ピッツバーグ交響曲』もあるが、これは別々の機会に作られた作品を後にまとめた組曲に近い性質のもので、正式に交響曲とするかは疑問が残る。ともかく、スパークは吹奏楽のための交響曲を3曲発表しているわけだが、「交響曲第〇番」という表記はサブタイトルに留まっており、第2番は『サヴァンナ・シンフォニー』（2010）、第3番は『カラー・シンフォニー』（2014）と題されている。今回演奏される第1番も同様で、正式タイトルは『大地、水、太陽、風（Earth, Water, Sun, Wind）』で、「交響曲第1番」はサブタイトル。さらに、これは実は後付けで、初演当初は交響曲とされておらず、単に『大地、水、太陽、風』というタイトルだった。初めて交響曲と付記されたのは2000年に大阪市音楽団（現：Osaka Shion Wind Orchestra）によって日本初演されたときだが、このときはまだ「第1番」というナンバリングはされていない。こうした慎重な姿勢は、いかに「交響曲」という存在がスパークにとって特別なものであるかの証左であるともいえよう。ともあれ、4楽章形式で作曲することは当初から予定されていたことであり、結果としてそれが伝統的な交響曲の様式と近似となり、最終的に「交響曲」と題されたのは不思議なことではない。ソナタ形式ではないものの絶対音楽的で主題労作に富んだ第1楽章、スケルツォ的な第2楽章、緩徐楽章である第3楽章、動的な快速楽章で明るい響きへと拓かれていく終楽章、という構造は「緩やかに」伝統的な交響曲の在り方と合致している。

作曲はノーザン・アリゾナ大学（NAU）パフォーミング・アーツ学部の創立100周年記念作品として委嘱されたもので、初演は1999年10月3日にパトリシア・ホイ指揮のNAUウインド・シンフォニーによって行われた。タイトルは古代ギリシアから生まれエンペドクレスやアリストテレスによって提唱された、世界を構成するとされる四元素による。曲を構成する4つの楽章それぞれが、一つずつ要素を表現している。一般的に、要素の順番には特に決まりはないのだが、「太陽（sun）」ではなく「火（fire）」としていることが多く、「風」も「wind」ではなく「air」の方がやや多い。それでもスパークが「sun」を採用したのは、作曲にあたってアリゾナ州の大自然をイメージした（スパークは作曲時点でアリゾナ州を訪れたことは無かったそうだが）からで、「wind」としたのは管楽器（the winds）になぞらえたから、ではなかろうか。4つの楽章はそれぞれ異なったスタイルで作られ、切れ目なく続けて演奏されるが、全体として違和感なく統合されている。

第1楽章：大地　Earth
律動的で力強い楽章。突如としてジャズ・イディオムや土俗的な打楽器が瞬間的に紛れ込むのは、この大地に住む多様な人々の営みを表現しているのか。

第2楽章：水　Water
ごく短い音型のリフレインが水の流れを描き出す。唐突に乱入する金管楽器による新たな楽想は、やがて凱歌に辿り着く。

第3楽章：太陽　Sun
スパークによると「音画」によってアリゾナ砂漠の灼熱が表現された楽章。シンセサイザーで模倣された陽炎の揺らぎのなか、様々な楽器が幽玄的に漂う。途中のトランペットは虫の鳴き声。

第4楽章：風　Wind
風の持つネガティブさとポジティブさの両面を併置した楽章。それは即ち、自然の破壊力への畏怖と、壮大さへの敬意。

〈敬称略〉

PROFILE | 楽団プロフィール

東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年5月「佼成吹奏楽団」として発足し、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称。
2022年4月より「一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ」として活動する
日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。
2024年4月から大井剛史が第6代常任指揮者、中橋愛生が楽芸員に就任。
桂冠指揮者にフレデリック・フェネル、特別客演指揮者にトーマス・ザンデルリンク、
首席客演指揮者に飯森範親を擁している。
吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し
高い音楽芸術性を創出し、多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。
また多くのレコーディング、メディアを通し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル
常任指揮者 …… 大井剛史
特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク
首席客演指揮者 …… 飯森範親
楽芸員 …… 中橋愛生

指揮 …… 横山 奏
演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo …… 丸田悠太
Flutes …… 前田綾子、白石法久
Oboes …… 宮村和宏※、上原朋子
EnglishHorn …… 梅枝理恵
Bassoons …… 神山純、西口真央
ContraBassoon …… 加藤秀一
Clarinet in E♭ …… 木内倫子
Clarinets in B♭ …… 大浦綾子、林裕子※、野田祐太郎、船橋栞里、粟生田直樹、河西拓也、草野裕輝、後藤榛花、徳武敦
AltoClarinet …… 瀧本千晶
BassClarinet …… 石田勝
ContraBassClarinet …… 原浩介
AltoSaxophones …… 林田祐和※(SopranoSaxophone)、江川良子
TenorSaxophone …… 松井宏幸
BaritoneSaxophone …… 栃尾克樹
BassSaxophone …… 田村真寛
Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、本間千也※、河原史弥、清川大介、三浦彩夏、箕輪瑠璃子
Horns …… 上原宏、堀風翔※、小助川大河、葛西亮、吉澤夏未
TenorTrombones …… 今村岳志※、上田智美、エンスレンショーン陸
BassTrombone …… 久保田和弥
Euphoniums …… 岩黒綾乃、大山智(Baritone)、齋藤充
Tubas …… 池田侑太、林裕人
Contrabass …… 前田芳彰
Timpani …… 坂本雄希
Percussion …… 渡辺壮※、和田光世、内田真裕子、大河原渉、木下卓巳、久米彩音、幸多俊
Harp …… 神谷朝子
Piano …… 神原颯大(Celesta/Synthesizer)

※演奏委員

コンサートマスター
林田祐和

副コンサートマスター
宮村和宏

インスペクター
栃尾克樹
丸田悠太
今村岳志

企画委員
原浩介

役員
理事長 …… 勝川本久
常務理事 …… 八反田弘
専務理事 …… 堀風翔
監事 …… 清水宏一

事務局
事務局長 …… 勝川本久
事務局次長 …… 堀風翔
事務局長補佐 …… 八反田弘

制作
篠原華
大橋証太(ステージマネージャー)
羽田紀子(ライブラリアン)

広報
尾崎真也
荻沼美帆(チケットサービス)

賛助会・サポーターズクラブ
荻沼美帆
尾崎真也
佐原由起

総務
佐原由起
岩崎友香(パーソナルマネージャー)

経理
水本孝枝

GREETING | 新楽団員あいさつ

B♭ Clarinet
野田 祐太郎

第164回定期演奏会にお越し頂いた皆様こんばんは。2月に入団致しましたクラリネット奏者の野田祐太郎です。私は約10年近く東京佼成ウインドオーケストラに客演奏者として演奏させて頂いてました。最初は東京佼成ウインドオーケストラ母体そのものに憧れがありました。そして長く客演させて頂いて今改めて思う事は素晴らしいプレイヤーの皆さん、そしてプレイヤーを支えている事務局の皆さんと共に音楽が出来る。共に演奏会を創っていける事に喜びを感じています。
これからは楽団の一員として演奏会にお越し下さるお客様の心に響く音楽を届け、より一層東京佼成ウインドオーケストラの魅力を伝えていける様務めていきます。
これからもまだまだ成長し続ける東京佼成ウインドオーケストラをよろしくお願い致します。

B♭ Clarinet
船橋 栞里

皆さまこんにちは。この度B♭クラリネット奏者として入団いたしました、船橋栞里と申します。
私は中学校の吹奏楽部でクラリネットを始め、その頃から東京佼成ウインドオーケストラに憧れてたくさんのCDを聴いていました。そんな憧れ続けた楽団の一員として活動ができること、とても嬉しく思うと同時に身が引き締まる思いです。
演奏会にお越しくださるお客さまに良い音楽をお届けできるよう精進して参りますので、これからどうぞよろしくお願いいたします！

好評発売中

Original goods

TKWO オリジナルグッズ

Tシャツ

リングノート

トートバッグ

アクリルキーホルダー

缶バッチ

クリアファイル

東京佼成ウインドオーケストラ
60年史

ほかにも多くの商品を
ご用意しております。

ご購入・詳細はこちら

Tokyo Kosei Wind Orchestra

賛助会員

会員募集中

今後も音楽文化の発展に貢献する
活動を行い豊かな社会を実現するため、
趣旨にご賛同いただける
多くの皆様からの
継続的なご支援が必要です。
賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

年会費	賛助会員	維持会員	特別会員
個人	3,000円／1口	10,000円／1口	100,000円／1口
法人	100,000円／1口	300,000円／1口	1,000,000円／1口

詳細はこちら

※会員期間：会費納入翌月より1年間
お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当　FAX：03-5341-1255　MAIL：patronage@tkwo.jp

賛助会員の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。（2024年4月1日現在）

法人会員

特別会員　**（株）佼成出版社**　匿名1名

維持会員
エーユーツーリスト（（株）アコード）
（株）ビルドエスアンドアール
名古屋 宗次ホール
フロアマイスター株式会社

賛助会員
株式会社アシストジャパン
遠藤製作所 遠藤悦治
株式会社CAFUAレコード
株式会社サンテックビオズ
株式会社全音楽譜出版社
中央鉄鋼 有限会社
株式会社プリマ楽器
柳澤管楽器株式会社
アトリエ・エム株式会社
海鮮食堂余市の仲間達
管楽器専門店ダク
鈴木住地（有）
立花産業（株）
フォスターミュージック株式会社
みずほ証券株式会社

個人会員

特別会員
アイちゃん
田中 淳子
ミーゴ
天野 正道
林 正作
山内 幸人
加賀美 猛
久末とまこ
菅野 泰正
古沢 秀明

匿名6名

維持会員：180名　／　賛助会員：94名

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

会員募集中

東京佼成ウインドオーケストラ（TKWO）を応援したい仲間が集まるファンクラブです。
TKWOをもっと身近で特別な存在に♪
サポーターズクラブへ入会して、一緒にTKWOを盛り上げていきましょう！

詳細はこちら

PR Supporters　PRサポーターの皆さま

敬称略で掲載させていただいております。（2024年4月1日現在）

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

▼店舗等一覧

アルル音楽教室
（株）コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター
ブレーン（株） 広島本社
ブレーン（株） 東京支社
（株）管楽器専門店ダク
ミュージックスクール「ダ・カーポ」
（株）セントラル楽器
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎
管楽器雑貨専門店pitch
ザ クラリネット ショップ
（株）ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京
（株）永江楽器水戸
野中貿易（株）
（株）ヤマハミュージックジャパン 横浜店
（株）池袋音楽学院
（株）CAFUAレコード
大江戸シンフォニックウィンドオーケストラ
ドレミファクトリー
フルート専門店 テオバルト
アトリエ・エム株式会社
イシバシ楽器 横浜店
フォルテ・オクターヴハウス
管楽器専門店ウィンズスタイル
フォスターミュージック株式会社
金管楽器修理調整 浅香工房
葡萄房 by THE CAMEL
やしろ食堂
吹奏楽酒場「宝島。」
金寿司
フローリスト花六
中華 大枡
海鮮食堂余市
おぐセンター
ワイン酒場トンマーゾ
小林メディカルファミリー薬局
天ふじ
立花産業株式会社

▼個人のお客様

渡邉 直子
樫野 哲也

東京佼成ウインドオーケストラでは PRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。（個人も含む）ご協力いただける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。

東京佼成ウインドオーケストラ 公演情報

"New Sounds in BRASS" コンサート2024

2024年5月7日（火）19:00（開場：18:15）

東京国際フォーラム ホールC

指揮：天野正道

ゲスト：エリック・ミヤシロ（Trumpet）、オリタノボッタ（Saxophone）、小堀浩（Guitar）、齋藤順（Bass）

クリスマスコンサート2024

2024年12月17日（火）19:00（開場：18:15）

東京オペラシティ コンサートホール：タケミツメモリアル

指揮：大井剛史（常任指揮者）

ゲスト：ジェイコブ・コーラー（Piano）　ほか

NONAKA いい楽器をあなたのもとへ
www.nonaka.com

YouTube

総輸入元 野中貿易株式会社　総発売元／製造元 株式会社ノナカ　〒231-0011 横浜市中区太田町4-46

TKWO Season Concert Schedule 2024-25

会場：なかのZERO 大ホール

第165回 定期演奏会　オール《ジョン・マッキー》プログラム

2024年6月8日［土］開演18:30（開場17:45）

指揮 **飯森範親**（首席客演指揮者）

- ◉オーロラは目覚める／J.マッキー
- ◉ソプラノ・サックスとウインド・アンサンブルのための協奏曲 ／J.マッキー
- ◉翡翠／J.マッキー
- ◉レッドライン・タンゴ／J.マッキー
- ◉フローズン・カテドラル／J.マッキー

独奏 林田祐和（TKWOコンサートマスター）

［1回券］一般 5,000円／U25 2,500円

会員先行 2024年4月1日（月）／一般発売 2024年4月8日（月）

第166回 定期演奏会　オストウォルド賞の系譜

2024年9月28日［土］開演18:30（開場17:45）

指揮 **大井剛史**（常任指揮者）

- ◉朝鮮民謡の主題による変奏曲／J.B.チャンス
- ◉交響曲第1番／J.バーンズ
- ◉交響組曲／C.ウィリアムズ
- ◉シンフォニア／周天

［1回券］一般 5,000円／U25 2,500円　発売日：調整中

第167回 定期演奏会　マスランカ・チクルス Vol.2

2025年1月11日［土］開演18:30（開場17:45）

指揮 **大井剛史**（常任指揮者）　ピアノ **鈴木 慎崇***

- ◉ブーレスク風ロンド（1972年委嘱作品）／伊福部 昭
- ◉交響曲第9番*／D.マスランカ

［1回券］一般 5,000円／U25 2,500円　発売日：調整中

※全席指定・税込 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。※出演者、曲目、時間等は変更にある場合がございます。
※会員先行は定期会員・サポーターズクラブ会員対象。

校成出版社
音楽出版室
1977 - 2010
KOSEI PUBLISHING COMPANY

KOSEIレーベルを音楽配信サービスで

iTunes、Apple Music、Spotify、Amazon Music、LINE MUSICをはじめとする各音楽配信サービスにて1000曲を超える楽曲を好評配信中！
1979年の初リリース以降、ポジティブに、かつ体系的に送り出されたコンテンツは、質・量ともに他の追従を許さない。世界に類例を見ない吹奏楽曲の数々を配信で！

主な配信サービス

iTunes　Spotify　Amazon Music　LINE MUSIC

株式会社 校成出版社
〒166-8535 東京都杉並区和田2丁目7−1 普門メディアセンター
03-5385-2311（代表）

電子書籍ECサイト
ちえすみ

YAMAHA
Make Waves

A NEW GENERATION OF TUBA

新発売！

YAMAHA PROFESSIONAL TUBA AND MOUTHPIECE

NEW YCB-623S
NEW YCB-623 特別生産モデル

■調子：C　■材質：イエローブラス　■直径：476mm
■ボア直径：I - IV：19.0mm（V：19.5mm）
■高さ：920mm
■仕上げ：銀メッキ(623：クリアラッカー)
■バルブ：4 ピストン+1 ロータリー
■吹込管：フローティングリードパイプ(材質：ゴールドブラス)

NEW BB-69D2

■シャンク：アメリカンシャンク
■リム内径：32.86mm
■スロート径：8.00mm
■リムカンター：やや丸い
■リムの厚さ：やや薄い
■カップ深さ：やや深い
■バックボア：標準

BB-69D2

お問い合せ
株式会社ヤマハミュージックジャパン　〒108-8568　東京都港区高輪2-17-11
お客様コミュニケーションセンター管弦打ご相談窓口
ナビダイヤル：0570-013-808　つながらない場合は053-411-4744へおかけください。
受付時間：月～金　10:00-17:00（土曜・日曜・祝日・センター指定休日を除く）

製品情報はこちら

ヤマハ管楽器
安心アフターサポート
※申込期間は、ご購入～1ヶ月以内
詳細はこちら

株式会社ヤマハミュージックジャパン